

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

大学院生研究 2024年度研究成果報告書

研究科名	コミュニティ福祉学研究科	
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ福祉学研究科・特別専任教授	松山 真
研究課題名	医療ソーシャルワーカーがクライアントに対して生じる陰性感情を取り扱うプロセス	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏 名
	コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻 博士前期課程2年	渡邊 早智
研究期間	2024 年度 4 月～2024 年 12 月	
研究経費	(支出金額) 90,506 円／(採択金額) 100,000 円	

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、医療ソーシャルワーカーが、クライアントに対して生じる陰性感情を取り扱うプロセスを言語化・視覚化することで、陰性感情が医療ソーシャルワーカーの支援に及ぼす影響や実践における留意点を示すことを目的とした研究である。分析方法は、調査対象者の行動変容を描き出すことに優れている修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを採択している。分析方法について習熟学習を行ったうえで、医療ソーシャルワーカー11名に対してインタビュー調査を実施。その後、全てのデータを逐語化し分析している。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

〔医療ソーシャルワーカー〕〔陰性感情〕〔修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA)〕

研究成果の概要 (600～800字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、インタビュー調査で得たデータを修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析した結果、医療ソーシャルワーカーがクライアントに対して生じる陰性感情を取り扱うプロセスは、クライアントに直接的に働きかけるプロセスと、クライアントに間接的に働きかけるプロセスが視覚化された。これらのプロセスは、医療ソーシャルワーカーが倫理綱領へ誠実さといった専門職としての姿勢や態度へ影響を与えていた。

陰性感情による医療ソーシャルワーカーのプロセスの特有性は、陰性感情をクライアント理解の道具とし、専門性に忠実であろうとして個人の価値観から切り離してクライアントを捉えようとしていること、また、クライアントの課題解決のために環境から交互作用性をより意識する行動が強化され、医療ソーシャルワーカーであろうとする姿勢を意識させる影響があると考えられる。

このように、医療ソーシャルワーカーは、陰性感情を自覚し、意図的に支援に活用していることが指摘できる。また、先行研究の分析により、新たな知見として、看護職との違いが明らかになった。看護職の陰性感情の対処プロセスは、手段であるのに対し、医療ソーシャルワーカーが陰性感情を持つことは、支援そのものに大きな影響を与えてしまう。医療ソーシャルワーカーはコミュニケーションを通じて支援を提供しているからこそ、クライアントと関係を保とうすることが、本来の支援を提供するために不可欠である。ゆえに、陰性感情を持つことにより、医療ソーシャルワーカーはクライアントと協働して課題解決に取り組もうとするだけでなく、陰性感情をクライアント理解の道具とするといった支援においてプラスに作用している。だからこそ陰性感情は、医療ソーシャルワーカーにとって、専門職であろうとし、倫理綱領に誠実になろうとする姿勢を意識させていると言える。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

(様式3)

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。
該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
- ②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
- ④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

現時点では研究発表には至っていない。

今後、雑誌論文への投稿、日本医療ソーシャルワーカー協会での学会発表を計画している。